

# 平成28年度(2016年度)事業報告書

平成28年(2016年)4月1日～平成29年(2017年)3月31日まで

認定NPO法人 富士山測候所を活用する会

## 1 事業の概況

事業運営を支える資金については、柱となる大型複数年助成案件（三井物産環境基金助成）のほかに、年賀寄附金助成、ドコモ市民活動団体助成、トヨタ環境活動助成プログラム、粟井英朗環境財団奨励金などがあり、比較的恵まれた年度であったといえる。一方の経費については、これまで課題となっていた建屋の補修を相当箇所について実施したほか、御殿場基地事務所も利便性の高い場所に適度な広さの物件を確保することができ、過去最長となる63日間の夏期観測活動はほぼ順調に終了することができたといえよう。

### (1)事業別実施概況

#### ● 総合的運用事業

63日間に21プロジェクト、延べ456名の参加を得て無事故で終了した。これらのプロジェクトを支えるハードウェア（建屋、電源等のインフラ）は、架空送電線下の大量土砂の堆積というこれまでになかった事象が発生したが、開所前までに対処し入山者に危害が及ぶリスクを回避した。建屋については、山頂班等が優先度の高い損傷箇所から補修を実施した。ソフトウェア面では管理資料作成のシステム化により、人員、物資に関わる複雑なオペレーション業務の改善がはかられた。

#### ● 学術的・科学的事業

2回にわたる公募（1次公募、2次公募）により採択された21事業を実施した。大気化学、大気電気などの継続事業のほかに、トライアルプロジェクトによる新規参加、火山噴火に備えた取り組み、国際的な連携による大気汚染観測研究などがある。実施にあたっては、現状変更申請書、現状変更終了報告書を作成し、関係官庁に必要な手続きをとった。

#### ● 環境教育事業

昨年に引き続き学生公募を行ったほか、山頂からのレクチャー配信「日本一高い大気科学研究所」のHP配信、山頂での富士山学校科学講座などを実施した。

#### ● 富士山測候所に関する国際及び国内シンポジウム等開催事業

2017年11月6日-10日に静岡県御殿場市で開催する国際シンポジウムACPM2017に向けて、実行委員会を組織し準備活動を開始したほか、節目となる第10回成果報告会は口頭発表件数を増やし、従来までの午後半日から終日開催に拡大実施した。

#### ● 出版情報発信事業

しずおかの文化新書21「日本一の高所・富士山頂は宝の山～観測と信仰から読み解く霊峰の頂～」の書籍執筆、新聞連載、ラジオ放送などにより情報発信を行った。会報「芙蓉の新風」Vol.11（2017/1/1発行）は測候所活用10周年を記念して増ページし特集号とした。ACPM2017に合わせ、NPOの英文パンフレット、英文ブックレットを新たに編集・発行した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の事業費の金額 (単位:千円)
(1)総合的運用事業	<p><b>ア. 開所に向けた設営事前準備と事前ミーティングの実施</b>                      (1)「現状変更申請」、「自衛隊立入り許可証」、「マイカー規制確認証」につき諸官庁への必要な事前申請手続きを行った。                      (2)緊急連絡に対する協力依頼を関係機関(気象庁、地元自治体、関係企業等)に行った。</p>	(A)4/1～6/30 (B)事務局/研究者 (C)20名	(D)研究者等 (E)延456名	18,816
	<p>(3)5/29 夏期観測関係者による事前ミーティングを開催、安全ルール等について徹底をはかった。</p>	(A)5/29 (B)東京理科大学 (C)10名	(D)一般研究者・学生等 (E)40名	
	<p><b>イ. 開所期間中の利用者の安全・円滑な荷上/荷下、登山/下山の支援</b>                      (1)「登山計画書」記載データをもとに①登下山の個人別日程管理表②ブル日程表の管理資料作成システムを初めて運用し、63日間・延べ456人の登下山等のオペレーションを円滑に実施した。                      (2)御殿場基地事務所として2棟を確保、研究者の利用に供し有効に活用した。</p>	(A)7/1～8/31 (B)富士山頂(富士山測候所)、御殿場基地(御殿場市)、事務局(東京都) (C)50名	(D)一般研究者・学生及び会員等 (E)延456名	
	<p><b>ウ. 夏期観測終了後の報告と反省会の実施</b>                      (1)「現状変更終了報告」を関係諸官庁(気象庁、静岡県教育委)へ行った。</p>	(A)9/1～9/30 (B)事務局/研究者 (C)20名	(D)研究者等 (E)約20名	
	<p>(2)10/2 関係者による夏期観測反省会を実施し、次年度の観測研究に備えた。</p>	(A)10/2 (B)東京理科大学 (C)10名	(D)一般研究者・学生等 (E)40名	
	<p><b>エ. インフラ(建屋・電源等)の整備</b>  <b>(1)ブル道補修</b>                      8/23(研究グループ撤収直前)に馬の背ブル道の損傷状況を勘案し、砂入れ補修を実施した。  <b>(2)建物</b>                      ・換気筒補修:                      1号庁舎2階の機器排熱による室内高温対策として、既存のダクトを利用して吸排気の換気扇2基の取り付け工事を実施した結果、一定の効果があり高温問題は解消された。                      ・外壁塗装・雨漏りの自主補修:                      建屋の損傷箇所(1号庁舎外壁・屋根、4号庁舎雪囲い、9トン水槽など)の補修を山頂班が実施。また、研究者ボランティアにより1号庁舎外壁のコーキング材劣化部分の補修と外壁塗装を実施した。  <b>(3)電源</b>                      架空送電線70号柱-71号柱間に雪解け水で大量の土砂流堆積により、入山者が高圧電線に接触する恐れがあったため、御殿場市及び静岡県に現状変更申請手続きをとり、6/2-6/5 緊急に重機で土砂撤去・整地を実施した。                      ※同6月に関電工が高圧埋設ケーブル点検中に2.8合ハットの内部が損傷していることがわかり、翌年度開所前までに対処することとした。</p> <p>(2013年度三井物産環境基金助成) (2016年度年賀寄附金配分助成)</p>	(A)7/1～8/31 (B)富士山頂(富士山測候所) (C)50名	(D)一般研究者・学生及び会員等 (E)延456名	

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の事業費の金額 (単位:千円)
(2)科学的・学術的事業	<p><b>ア. 観測研究の実施支援</b> 1次公募、2次公募により選ばれた継続案件を含む<b>21事業</b>の実施を支援した。 <b>(2016年度粟井英朗環境財団奨励金)</b> 特徴的な事業は以下のとおりである。 <b>(1)トライアルプロジェクト</b>として、芸術・教育分野(京都市立芸大)、高所医学分野(びわこ成蹊スポーツ大)などが新規参加。 <b>(2)火山噴火に備えた取り組み</b>として①加藤(首都大東京)らが開発したSO<sub>2</sub>モニタリングシステムによるデータを準リアルタイムで公開 ②大河内(早稲田大)、戸田(熊本大)が将来の富士山噴火に備えて微量の火山ガス(SO<sub>2</sub>およびH<sub>2</sub>S)検出装置の開発調査を実施③NHK静岡局が噴火監視・防災放送システムの構築を目標としたモニタカメラの設置と映像配信(非公開)。 <b>(3)国際的な連携による大気汚染観測研究</b>として①埼玉県環境科学国際センターがPM2.5の日中韓同時観測の一環として富士山頂で観測②東アジアにおける越境大気汚染の輸送メカニズムとエアロゾルの変質過程解明のため、東京農工大と台湾国立中央大が富士山と台湾Lulin山同時観測。</p> <p><b>イ. 屋内太陽光パネルによる通年試験の実施</b> 自然エネルギーを利用して地球環境保全に資する新たな機能を創出する試験を実施した。 <b>(2016年度年賀寄附金配分助成)</b></p> <p><b>ウ. 観測データの公開及び研究速報の発表</b> 夏期観測のデータに関係者に速報するとともに、観測データの相互利用を促進するためHPを通じて呼びかけ、利用の申込受付を開始した。</p>	<p>(A)7/1～8/31 (一部通年観測) (B)富士山測候所 (C)延456名</p> <p>(A)7/1～8/31 (B)富士山測候所 (C)延10名</p> <p>(A)9/1～10/30 (B)大学等 (C)延20名</p>	<p>(D)研究者・学生等(公募により選抜) (E)延456名</p> <p>(D)研究者・学生等(会員) (E)延20名</p> <p>(D)不特定多数 (E)―</p>	10,371
(3)環境教育事業	<p><b>ア. 学生公募の実施 (5/1-6/30)</b> 教育的観点からNPO財源により学生だけによる自主的事業を対象とした公募にFuji-sat事業(東京学芸大)が選ばれ初めてデータ取得と通信に成功。</p> <p><b>イ. 富士山学校科学講座の開講</b> 8/6富士山測候所において横浜市立大学学生を対象として科学講座を開講した。</p> <p><b>工. 理科実験教材の開発</b> 富士山頂に滞在し、生起する自然現象を観察しながらがままの自然の振る舞いを学ぶ中高校生向けの理科実験教材作りを実施した。</p> <p><b>オ. 環境科学に関するレクチャービデオの作成</b> 山頂で研究活動に参加する学生を主たる対象に環境科学レクチャービデオ「日本一高い大気科学研究所」として①岩本(東京理科大)②加藤(首都大)③三浦(東京理科大)による講座を制作した。 <b>(2015年度ドコモ市民活動団体助成)</b></p> <p><b>カ. 講師派遣</b> ①2/18しずおかの文化新書講演会で「雲の上の研究所-富士山測候所の魅力と価値-」と題して土器屋理事が講演を行った。 ②3/18横浜市立大学エクステンション講座(親子対象)で「富士山測候所は知っている。大気健康」と題して土器屋理事が講演を行った。</p>	<p>(A)7/1～8/31 (B)富士山測候所 (C)4名</p> <p>(A)8/6 (B)富士山測候所 (C)延10名</p> <p>(A)4/1～3/31 (B)―(出先) (C)延10名</p> <p>(A)7/20-8/20 (B)富士山測候所 (C)延10名</p> <p>(A)2/18 (B)静岡市 (C)1名</p> <p>(A)3/18 (B)横浜市 (C)1名</p>	<p>(D)学生 (E)10名</p> <p>(D)横浜市立大学生 (E)20名</p> <p>(D)中学生・高校生 (E)50名</p> <p>(D)不特定多数・学生 (E)1名</p> <p>(D)一般 (E)40名</p> <p>(D)小中学生の親子 (E)20名</p>	48

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の事業費の金額 (単位:千円)
(4) 国際・国内シンポジウム等開催事業	<b>ア. 第10回成果報告会の実施</b> 2017/3/5 東京理科大学総合研究院大気科学研究部門と共催し、10回目となる成果報告会を開催。口頭発表件数を増やし開催時刻も午前10時に繰り上げ実施。	(A)3/5 (B)東京理科大学 (C)40人	(D)不特定多数/会員 (E)99名	349
	<b>イ. 東京理科大学総合研究院大気科学研究部門主催大気科学シンポジウムの後援</b> 同部門(山岳大気研究部門から改組)主催第1回シンポジウムを後援。	(A)3/28 (B)東京理科大学 (C)10名	(D)不特定多数/会員 (E)70名	
	<b>ウ. ACPM2017(大気化学物理シンポジウム)の開催準備</b> 2017/1/9 に実行委員会を組織し、会場下見、公式サイト立ち上げなど準備を開始。	(A)1/9— (B)東京理科大学 (C)延30人	(D)— (E)一名	
(5) 出版情報発信等広報事業	<b>ア. HPによる情報発信</b> (1)夏期観測期間中に①ライブカメラ画像(会員向け高精細画像と一般向け標準画像)②SO <sub>2</sub> 観測データの準リアルタイム配信。 (2)東京学芸大学の学生が山頂火口を一周する「お鉢巡り」のストリートビュー撮影し、HPで公開。	(A)4/1~3/31 (B)富士山測候所 東京学芸大学 (C)延10名	(D)不特定多数/会員 (E)一名	142
	<b>イ. 書籍、新聞、ラジオ放送等による情報発信</b> (1)FMヨコハマに土器屋理事が2週連続出演。7/8「富士山でわかる大気環境」、7/15「富士山測候所活用の可能性」。 (2)しずおかの文化新書21「日本一の高所・富士山頂は宝の山～観測と信仰から読み解く霊峰の頂～」の前半「富士山頂は日本で宇宙に一番近い研究と教育の空間」を土器屋理事が執筆。 (3)三浦理事がデーリー東北のコラム「私見創見」に連載執筆。	(A)4/1~3/31 (B)事務局 (C)延10名	(D)不特定多数/会員 (E)一名	
	<b>ウ. 会報誌、パンフレット等出版物</b> (1)会報「芙蓉の新風」Vol. 11(2017/1/1発行)を測候所活用10周年記念号として増頁し、「会員からのメッセージ」(4頁)の特集記事を組む。 (2)ACPM2017に備え英文パンフ(四つ折り)、ACPM2017パンフ(三つ折り)を制作した。	(A)4/1~3/31 (B)研究者/学生会員、事務局 (C)30名	(D)不特定多数/会員 (E)一名	

(注)上記の各事業の一部は次の助成事業の中で実施した。

- **2013年度三井物産環境基金助成**  
「地球大気環境保全に向けた富士山測候所の戦略的活用計画(その2)世界に開かれた日本一ハイレベルな研究・教育拠点としての富士山測候所の再生」
- **2015年度ドコモ市民活動団体助成(環境分野)**  
「富士山頂から地球環境問題を学んでもらうプロジェクト」
- **2015年度トヨタ環境活動助成プログラム**  
「富士山測候所の被雷対策による温室効果ガス常時監視の実現」
- **2016年度年賀寄附金配分助成**  
「地球環境観測拠点としての富士山測候所の労力提供型整備事業」
- **2016年度粟井英朗環境財団奨励金**  
「富士山麓の森林生態系に影響を及ぼすPM2.5の生成機構と輸送経路に関する調査」

(2) その他の事業

該当なし

第12期

自 平成28年 4月 1日

至 平成29年 3月31日

(特非) 富士山測候所を活用する会

東京都千代田区麹町一丁目6番9号  
D I K麹町ビル901

書式第15号(法第28条関係)			
平成28年度 貸借対照表			
平成29年3月31日現在			
特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会			
(単位:円)			
科	目	金	額
I	資産の部		
1	流動資産		
	現金預金	6,950,405	
	未収金	1,288,865	
	その他流動資産	839,510	
	流動資産合計		9,078,780
2	固定資産		
	(1)有形固定資産		
	構築物	4,200,000	
	機械及び装置	1,895,000	
	什器備品	2,272,725	
	減価償却累計額	△ 3,381,358	
	有形固定資産計		4,986,367
	(2)無形固定資産		
	-	0	
	無形固定資産計		0
	(3)投資その他の資産		
	保証金	160,000	
	敷金	230,000	
	投資その他の資産計		390,000
	固定資産合計		5,376,367
	資産合計		14,455,147
II	負債の部		
1	流動負債		
	未払金	8,871	
	前受金	7,500,000	
	預り金	46,161	
	未払い消費税	400,600	
	納税充当金	70,000	
	流動負債合計		8,025,632
2	固定負債		
	修繕積立金	0	
	固定負債合計		0
	負債合計		8,025,632
III	正味財産の部		
	前期繰越正味財産	6,385,853	
	当期正味財産増減額	43,662	
	正味財産合計		6,429,515
	負債及び正味財産合計		14,455,147

書式第13号(法第28条関係)			
平成 28年度 活動計算書			
平成 28年 4月 1日から 平成 29年 3月31日まで			
特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会			
(単位:円)			
科 目	金 額		
<b>I 経常収益</b>			
1 受取会費			
正会員受取会費	1,335,000		
賛助会員受取会費	549,500		
学生会員受取会費	82,000	1,966,500	
2 受取寄附金			
受取寄附金	378,860		
施設等受入評価益	0	378,860	
3 受取助成金等			
受取補助金	0		
助成金	11,678,000	11,678,000	
4 事業収益			
自主事業収益	20,805,052		
科学学術的収益	8,780,918	29,585,970	
5 その他収益			
受取利息	811		
その他	50,827	51,638	
経常収益計			43,660,968
<b>II 経常費用</b>			
1 事業費			
(1)総合運用事業	18,816,373		
(2)科学的・学術的の事業	10,371,096		
(3)環境教育事業	48,387		
(4)人的ネットワーク事業	0		
(5)国際及び国内シンポジウム等開催事業	348,790		
(6)出版、情報発信等広報事業	142,352		
事業費計		29,726,998	
2 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	0		
給料手当	2,400,000		
通勤費	600,875		
法定福利費	455,963		
雑給与	4,364,000		
人件費計	7,820,838		
(2)その他経費			
謝金	22,222		
通信費	282,439		
運搬費	28,554		
水道光熱費	78,027		
旅費交通費	520,977		
会議費	75,137		
地代家賃	1,661,125		
事務用消耗品費	194,335		
備品消耗品	42,059		
印刷費	1,667		
租税公課	413,900		
保険料	25,000		
支払手数料	21,600		
諸会費	10,000		
雑費	138,428		
その他経費計	3,515,470		
管理費計		11,336,308	
経常費用計			41,063,306
当期経常増減額			2,597,662
<b>III 経常外収益</b>		0	
-		0	
経常外収益計			0
<b>IV 経常外費用</b>			
災害対策費		2,484,000	
経常外費用計			2,484,000
税引前当期正味財産増減額			113,662
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			43,662
前期繰越正味財産額			6,385,853
次期繰越正味財産額			6,429,515

平成 28年度 財産目録

平成 29年 3月 31日現在

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
小口現金	98,047	
普通預金		
みずほ銀行 麹町支店	6,107,433	
郵貯銀行	2,162	
三菱UFJ 銀行 麹町支店	700,233	
郵貯銀行／受払口座	42,530	
定期預金	0	6,950,405
未収金		
事業未収金	1,288,865	
会費未収金	0	1,288,865
その他流動資産		
前払金	839,510	
立替金	0	839,510
流動資産合計		9,078,780
2 固定資産		
(1)有形固定資産		
構築物	4,200,000	
機械及び装置	1,895,000	
什器備品	2,272,725	
減価償却累計額	△ 3,381,358	
有形固定資産計		4,986,367
(2)無形固定資産		
-	0	0
無形固定資産計		0
(3)投資その他の資産計		
保証金	160,000	
敷金	230,000	
投資その他の資産計		390,000
固定資産合計		5,376,367
資産合計		14,455,147
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	8,871	
前受金	7,500,000	
預り金	46,161	
未払消費税	400,600	
納税充当金	70,000	
流動負債合計		8,025,632
2 固定負債		
修繕積立金	0	0
固定負債合計		0
負債合計		8,025,632
正味財産		6,429,515



書式第16号(法第28条関係)								
平成28年度 計算書類の注記								
特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会								
1. 重要な会計方針								
計算書類の作成は、一般会計基準 によっています。								
(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法 無し								
(2) 固定資産の減価償却の方法 定額法によっています。								
(3) 引当金の計上基準								
・退職給付引当金 無し								
・修繕積立金 収支状況に基づき、任意に引き当てをする。								
(4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理 無し								
(5) 消費税等の会計処理 内税方式によっています。								
2. 事業別損益の状況								
科目	総合運用 事業	科学的・学術 的 事業	環境教育 事業	国際及び国内シンポジ ウム等開催事業	出版、情報発 信等の広報事	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益								
1. 受取会費						0	1,966,500	1,966,500
2. 受取寄附金	378,860					378,860		378,860
3. 受取助成金等	8,784,498	2,893,502	0			11,678,000		11,678,000
4. 事業収益	20,805,052	8,780,918	0			29,585,970		29,585,970
5. その他収益					50,827	50,827	811	51,638
経常収益計	29,968,410	11,674,420	0	0	50,827	41,693,657	1,967,311	43,660,968
II 経常費用								
(1) 委託費・人件費								
労務委託費	7,867,045					7,867,045		7,867,045
運搬費	2,181,592	8,422,182	48,387			10,652,161		10,652,161
人件費	224,000					224,000		224,000
傷害保険料	221,689					221,689		221,689
事務局人件費							7,820,838	7,820,838
委託費計	10,494,326	8,422,182	48,387	0	0	18,964,895	7,820,838	26,785,733
(2) その他経費								
通信費	74,441					74,441	282,439	356,880
旅費交通費	696,133	207,178				903,311	520,977	1,424,288
荷造り運賃						0	28,554	28,554
水道光熱費	2,371,615					2,371,615	78,027	2,449,642
賃借料	1,000,274			55,600		1,055,874	1,661,125	2,716,999
会議費						0	75,137	75,137
減価償却費	449,837					449,837	0	449,837
物品購入費		802,246				802,246	42,059	844,305
事務用品費						0	194,335	194,335
外注委託費		825,000				825,000	0	825,000
印刷製本費	0			148,794	72,962	221,756	1,667	223,423
修繕費	1,172,055	114,490		0		1,286,545	0	1,286,545
し尿処理費	535,680					535,680	0	535,680
送電線等保全費	1,512,000					1,512,000	0	1,512,000
租税公課						0	413,900	413,900
その他諸経費	510,012			144,396	69,390	723,798	217,250	941,048
その他経費計	8,322,047	1,948,914	0	348,790	142,352	10,762,103	3,515,470	14,277,573
経常費用計	18,816,373	10,371,096	48,387	348,790	142,352	29,726,998	11,336,308	41,063,306
当期経常増減額	11,152,037	1,303,324	-48,387	-348,790	-91,525	11,966,659	-9,368,997	2,597,662

第1号議案

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳							(単位：円)
内容		金額	算定方法				
無し							
4. 使途等が制約された寄附金等の内訳							
使途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。							
当法人の、下記のように使途が特定された助成金は前受金7,500,000円として負債額計上処理しており、							
よって負債合計額は8,025,632円となります。							
したがって使途が制約されていない正味財産は6,429,515円です。							
(単位：円)							
内容		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考	
三井物産助成金		4,812,000	0	4,812,000	0		
トヨタ自動車助成金		1,700,000	1,300,000	2,300,000	700,000	前受金として次年度へ繰り越し処理をした	
MCFドコモ助成金		546,000	0	546,000	0		
年賀寄附金配分金			3,920,000	3,920,000	0		
粟井英朗環境財団助成金			100,000	100,000	0		
大成建設助成金			700,000	0	700,000	前受金として次年度へ繰り越し処理をした	
渡辺記念会受取収益			6,000,000	0	6,000,000	前受金として次年度へ繰り越し処理をした	
ACPM2017寄附金2件			100,000	0	100,000	前受金として次年度へ繰り越し処理をした	
合計		5,280,000	12,120,000	11,678,000	7,500,000		
5. 固定資産の増減内訳							
(単位：円)							
科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額	
有形固定資産							
構築物	4,200,000	0	0	4,200,000	1,028,160	3,171,840	
機械装置	1,895,000	0	0	1,895,000	633,170	1,261,830	
事業用什器備品	1,761,165	401,760	0	2,162,925	1,621,208	541,717	
管理用什器備品	109,800	0	0	109,800	98,820	10,980	
計	<b>7,965,965</b>	<b>401,760</b>	<b>0</b>	<b>8,367,725</b>	<b>3,381,358</b>	<b>4,986,367</b>	
無形固定資産							
.....				0	0	0	
投資その他の資産							
保証金	160,000			160,000		160,000	
敷金	230,000			230,000		230,000	
計	<b>390,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>390,000</b>	<b>0</b>	<b>390,000</b>	
合計	<b>8,355,965</b>	<b>401,760</b>	<b>0</b>	<b>8,757,725</b>	<b>3,381,358</b>	<b>5,376,367</b>	
6. 借入金の増減内訳							
(単位：円)							
科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高			
無し	0	0	0	0			
合計	0	0	0	0			
7. 役員及びその近親者との取引の内容							
役員及びその近親者との取引は以下の通りです。							
(単位：円)							
科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引					
(活動計算書)							
受取寄附金	378,860	111,260					
活動計算書計	<b>378,860</b>	<b>111,260</b>					
(貸借対照表)							
前受金	7,500,000	50,000					
貸借対照表計	<b>7,500,000</b>	<b>50,000</b>					
8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項							
・ 事業費と管理費の按分方法							
無し							
・ その他の事業に係る資産の状況							
無し							

(参考資料)

## 平成28年度 予算対比収支計算書

(平成28年 4月 1日から平成29年 3月31日まで)

特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会  
(単位：円)

科 目	28年度予算額 (a)	決算額(b)	差異額(b)-(a)	備考
<b>I 経常収益</b>				
<b>1 入会金・会費収入</b>	<b>1,980,000</b>	<b>1,966,500</b>	<b>-13,500</b>	
正会員会費収入	1,400,000	1,335,000	-65,000	
賛助会員会費収入	500,000	549,500	49,500	
学生会員会費収入	80,000	82,000	2,000	
<b>2 受取寄附金</b>	<b>1,200,000</b>	<b>378,860</b>	<b>-821,140</b>	
受取寄附金	1,200,000	378,860	-821,140	
<b>3 受取助成金等</b>	<b>11,078,000</b>	<b>11,678,000</b>	<b>600,000</b>	
補助金			0	
助成金	11,078,000	11,678,000	600,000	
<b>4 事業収益</b>	<b>28,612,000</b>	<b>29,585,970</b>	<b>973,970</b>	
自主事業収益	20,612,000	20,805,052	193,052	
科学学術事業収益	8,000,000	8,780,918	780,918	
<b>5 その他収益</b>	<b>300,000</b>	<b>51,638</b>	<b>-248,362</b>	
受取利息	0	811	811	
その他	300,000	50,827	-249,173	
<b>経常収益計</b>	<b>43,170,000</b>	<b>43,660,968</b>	<b>490,968</b>	
<b>II 経常費用</b>				
<b>1 事業費</b>	<b>32,035,600</b>	<b>29,726,998</b>	<b>-2,308,602</b>	
総合的運用事業費	21,025,600	18,816,373	-2,209,227	
科学的・学術的事業費	9,980,000	10,371,096	391,096	
環境教育事業費	330,000	48,387	-281,613	
国際・国内シンポジウム等開催事業	550,000	348,790	-201,210	
広報活動事業費	150,000	142,352	-7,648	
<b>2 管理費</b>	<b>9,500,000</b>	<b>11,336,308</b>	<b>1,836,308</b>	
事務局人件費	6,200,000	7,820,838	1,620,838	
会議費	100,000	75,137	-24,863	
事務局運営費	3,200,000	3,440,333	240,333	
<b>経常支出合計</b>	<b>41,535,600</b>	<b>41,063,306</b>	<b>-472,294</b>	
<b>当期経常収支差額</b>	<b>1,634,400</b>	<b>2,597,662</b>	<b>963,262</b>	
<b>III 経常外収益</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
-	0		0	
<b>IV 経常外費用</b>	<b>1,500,000</b>	<b>2,484,000</b>	<b>984,000</b>	
修繕積立金引当額	1,500,000	0	-1,500,000	
災害対策費	0	2,484,000	2,484,000	
<b>税引前当期正味財産増減額</b>	<b>134,400</b>	<b>113,662</b>	<b>-20,738</b>	
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	<b>70,000</b>	<b>70,000</b>	<b>0</b>	
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>64,400</b>	<b>43,662</b>	<b>-20,738</b>	
<b>前期繰越正味財産額</b>	<b>6,385,853</b>	<b>6,385,853</b>	<b>0</b>	
<b>次期繰越正味財産額</b>	<b>6,450,253</b>	<b>6,429,515</b>	<b>-20,738</b>	

# 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

理事長 畠山 史郎 殿

定款第15条第5項の規定に基づき、第11期事業年度の計算書類とその付属明細書の監査、並びに理事の業務執行状況について監査した結果、次のとおり報告します。

## 1. 監査の方法及びその内容

理事会に出席し、会計帳簿その他会計に関する重要な文書を読覧すると共に、理事等から職務の業務執行状況等の報告を受け、また、随時説明を求めてきました。

## 2. 監査の結果

- (1) 財産目録、貸借対照表、活動計算書は、法人の財産及び収支の状況の全ての重要な点において適正に表示している。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく表示している。

平成29年4月21日

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

監 事 亀甲 邦敏 印

監 事 佐藤 政博 印